

# 近世陰陽師の祭祀と祭文

奈良曆師吉川家文書の地鎮祭の祭文を中心に

松山由布子

Rituals and Ritual Texts of Early Modern Omnyōji : Focus on the "Saimon" of "Jichinsai" in the Documents of the Yoshikawa Family, Calendar Artists in NARA

MATSUMAYAMA Yuko

はじめに

## ① 吉川家文書の概要と先行研究

## ② 吉川家の地鎮祭の祭文

結語

### 【論文要旨】

本稿は、近世南都の曆師兼陰陽師であった吉川家について、その陰陽師としての活動の実態を、祭文をもとに明らかにするものである。吉川家は、大和国添上郡奈良町内の陰陽町を拠点に、南都曆を製作・頒布していた曆師のうちの一軒であり、また土御門家の配下の陰陽師として、檀那場にて陰陽道の祭祀に従事した。

本稿では、吉川家の地鎮祭や宅鎮祭の祭文について取り上げる。地鎮祭は、家屋敷の造営などに際して犯土の祟りを受けないように行われる儀礼であり、古代より陰陽道の代表的な祭祀の一つであった。本稿では、国立歴史民俗博物館所蔵「奈良曆師吉川家旧蔵資料」より、二種類・八点の祭文を取り上げ、その内容や写本同士の書承関係について検証した。この二種類の祭文を、本稿では便宜上「地鎮安宅祭文」「地鎮祭祝詞」と称する。

「地鎮安宅祭文」は、「宅鎮祭用物」の標題を持つ儀礼次第書の祭文部分である。「宅鎮祭用物」は、吉川家文書（H 679―8―135）のほか、土御門家旧蔵資料（宮内庁書陵

部所蔵）と若杉家文書（京都府立京都学・歴史館所蔵）に写本が現存しており、吉川家本は書陵部本の写しと考えられる。陰陽町の藤村家を介して同町の陰陽師達に共有され、吉川家では「地鎮安宅祭文」として相伝された。安倍（土御門）家の祭文として伝えられる天正十一年（一五八三）書写『地鎮之祭文』と内容上の繋がりを持つ。一方「地鎮祭祝詞」は、現在のところ他家資料との繋がりは見いだせず、吉川家のみ用いられた地鎮祭の詞章と推察される。

これら二種類の祭文は、吉川家では十八世紀から十九世紀にかけて、歴代の吉川家当主により繰り返し書写されていた。本稿では、そうした書承により相伝された知識の中に土御門家伝来の儀礼詞章が見出せること、また地方陰陽師の側ではそうした〈正統〉的な知識を重要視しつつも、家独自の知識大系を確立していたことを明らかにした。

【キーワード】 近世陰陽師、奈良曆師、儀礼詞章、地鎮祭、宅鎮祭